様式第８号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業報告書

事　業　名	「アクティブスポーツ×居場所×若者×移住定住」コラボ事業
事業目的	子ども・若者にとって親しみやすい活動であることから、地域に新たな価値を創出する可能性のある「アクティブスポーツ」を住民主体（特に若者世代）で行う地域活性化に寄与する手段として位置づけます。
事業実施場所	弓ヶ浜公園　わくわく広場　スケートボードパーク
事業の対象者	県内外のスケートボードを主とするアクティブスポーツ愛好家。それに興味、関心のある、米子市内を中心とした県内外の子ども・青少年・子育て世代。それに興味、関心のある、移住、定住希望者。
事業概要	開催日　9月15日 弓ヶ浜スケートボードコンテスト 大会エントリー数　49名（Aクラス 20名、Bクラス 16名、Cクラス 10名、Gクラス 3名） 関東からトッププロ6名を招き、スクールやデモンストレーションを実施しました。 プロライダーも多くドリンクコーナーやフードコーナーなどや同時に元プロスケートボーダーである柳町唯さんの書籍「スケートボードis素敵」のサイン即売会も開催したため来場者数は200人以上となりました。 山陰、山陽、関西、四国と県外からの来場者や参加者も多くみられました。 今後の目標としては関東圏、九州圏の参加者も獲得できたらと思います。 ネギレースと称したリレー方式の競争には20組60名の参加がありました。 スケートボードの上にさえ乗れれば誰でも簡単に参加できる競技、グラディエーターチャレンジと称したスケボー相撲では未就学児から50代以上の参加があり、スケートボードに親しめることができたと思います。 コンテストが開催されるという情報を聞きつけた関東圏のプロスケートボーダー2名は鳥取県に行ってみたいという想いで実費で鳥取県へ来られました。 9月16日 プロスケートボーダー6名によるスケートボードスクール、デモンストレーション こちらは、事業とは関係ありませんが、プロスケートボーダーのご厚意により、島根県雲南市にある大東チャレンジ広場で開催されました。
事業効果	県内外から多くの愛好者が一度に集まるので、普段はなかなか交流できない人とも交流する場になった。 また、未経験者、興味がある方々も観戦しやすく、より多くの人にスケートボードを身近に感じてもらえる機会になった。 9月の連休ということもあり、県外の愛好者のほとんどが2泊3日で鳥取県の観光とともにスケートボードを楽しむことができた。 関東で活動しているプロライダーにゲスト参加してもらったことにより、中国地方はもちろん、関西、四国、九州などの愛好者に強くアピールできた。 また、ゲストライダーが自身のＳＮＳで情報発信（食べ物や景色などをアップ）して

	くれたことにより、間接的にではあるがより多くの方へアピールすることができた。 国内トップライダーの滑りを間近で見れたことにより、参加者に刺激を与えることができた。 協会関係者だけではなく多くの方がボランティアで大会運営に携わり、自分達で大会を作っていく、盛り上げていくといった雰囲気を感じることができ、大会を通じ、地元愛好者の団結力、一体感が高まった。
今後の取り組み 次年度以降、どのように継続して事業に取り組み、また、活動の成果をどのように住みよいまちづくりに生かしていくのか、具体的に記載してください。	現在、オリンピックの新種目としてテレビなどのメディアにスケートボードが登場することが多くなり、それに伴い鳥取県内の愛好者も確実に増加してきていると感じるが、まだまだ他の競技に比べるとその数は少なく、一時のブームで終わってしまう危うさも十分にあり、今後も継続して事業を展開していくことがもっとも重要と考える。 ・今後はスケートボードだけではなく、スノーボード、サーフィン愛好家の方などとも積極的に交流し、アクティブスポーツ全体を盛り上げていく必要もある。 ・そして、幅広い魅力を県外者の方に発信していき、県内のアクティブスポーツのさらなる発展、地域活性化に貢献していきたい。 ・また継続して事業を行っていくために、練習会や定期的な無料スクールの実施など検討中。

（注）事業実績報告書は、米子市報、ホームページ等で公表することもあります。

様式第９号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業収支決算書

１　収入の部　　（単位：円 ）

科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
市からの交付金	80,000	80,000		
自己資金	40,000	56,880	16,880	目標とする金額の収入はあったが、足りない部分を協会員の寄付金で補うことになりました。
事業収入	100,500	104,000	3,500	エントリー費 129名（Aクラス 20名×1,500 円、B クラス 16 名×1,000 円、C クラス 10 名×1,500 円、Gクラス 3名×1,000円、ネギレース 20 チーム×1,500 円、グラディエーターチャレンジ 20 名×500円）
その他	50,000	62,000	12,000	企業、グループからの寄付金の詳細は添付しています。
合計	270,500	302,880	32,380	

2　支出の部　　（単位：円 ）

	科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
交付金対象経費	報償費	30,000	0		謝礼金はご厚意により負担はありませんでした。
	旅費	120,000	202,440	△82,440	デモンストレーションライダー、講師航空券（関東圏から２名招集の予定でしたが、プロスケートボーダーがチームできたので４名分となりました
	需用費	100,000	68,040	31,960	イベントテント、音響機器レンタル費用
	役務費				
	委託料	10,500	32,400	△21,900	フライヤー製作費、印刷代とまとめて依頼となりました。
	使用料及び賃借料	10,000	0		営利目的の使用ではないので、スケートボード占有使用料は無料となりました
	その他				
	小計	270,500	302,880	△32,380	
その他の経費					
	小計				
合計		270,500	302,880	△32,380	

（注）交付金対象経費の支出には、領収書の写しを添付してください。

様式第８号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業報告書

事　　業　　名	新開西三区自治会　防災研修を通してのまちづくり推進事業
事　業　目　的	米子市自治連合会事業推進方針「安全・安心に暮らせる住み良い地域づくり」の一環として、地震津波災害防止のため全世帯対象の防災研修会を実施することで、安心・安全なまちづくりを推進していく。
事業実施場所	新開西三区自治会地域内
事業の対象者	自治会員世帯・事業所（自治会加入世帯・事業所　約 635 世帯、事業所）
事　業　概　要	・新開西三区自治会津波避難計画書・津波避難対応策マニュアル冊子の作成及び上記自治会加入対象世帯・関係機関に配布（作成部数　670 冊） 一般世帯約 340 冊　　コーポ入居世帯約 260 冊　　事業所等 35 冊 その他関係機関 20 冊　　保管予備 15 冊（新転入者用） 〇別冊マニュアル冊子参照 ・防災（地震津波対策）研修会・セミナーの開催 ①　自治会役員、班長対象研修会　２回開催　参加総数延 38 名 ＜第１回研修会の様子＞　＜第２回研修会の様子＞ ②　世帯対象防災セミナーの開催　１回開催　参加総数 35 名 ＜セミナーの様子＞ ＊年度内に第二回目を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い開催を自粛し令和２年度に延期した。---3 月 10 日中止決定 （小単位班毎で開催、引き続き令和２年度も継続開催----4～5 回程度予定） 〇研修会及びセミナー内容別紙研修及びセミナー報告書参照

	・自治会内要所々に津波時避難誘導看板の取り付　34 枚。 〇取り付例 ・防災マップ修正作製（従来のマップに津波避難経路表示） 〇別紙防災マップ参照 ●全体の事業活動状況の詳細は別紙活動記録参照
事　業　効　果	・自治会会員、セミナー参加者は地震津波の被害状況等日本海沿い・堀川沿い地域の現状の把握と自助共助の認識、意識高揚を推進できた。 ・他地区自治会長へ当自治会の取組を紹介、各自治会の防災活動を促すことに寄与出来た。 ・自治会、防災会の事業、活動を深める事が出来た。
今後の取り組み 次年度以降、どのように継続して事業に取り組み、また、活動の成果をどのように住みよいまちづくりに生かしていくのか、具体的に記載してください。	・引き続き、令和２年度も小単位の防災セミナーを開催し、更なる意識向上と防災・減災に向かって事業を推進して行きたい。 ・その一環として、セミナー終了後各世帯から避難場所への道順、所要時間等認識してもらう為「防災さんぽ」と称してミニ避難訓練を計画する。 ・最終的に事業所及びセミナー不参加世帯を含めマニュアル冊子の全世帯配布を行う。（マニュアル冊子作製の意義を紹介しながら。） ・当自治会が各種防災、防犯等にも積極的に活動している自治会であることを訴えながら安心、安全で住み良いまちづくりを引き続き推進していきたい。

（注）事業実績報告書は、米子市報、ホームページ等で公表することもあります。

様式第９号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業収支決算書

１　収入の部　（単位：円 ）

科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
市からの交付金	80,000	80,000	0	
自己資金	73,000	151,013	78,013	自治会 101,013 円　防災会 50,000 円
事業収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
合計	153,000	231,013	78,013	

２　支出の部　（単位：円 ）

	科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
(交付金対象経費	報償費	0	0	0	
	旅費	0	0	0	
	需用費	144,000	228,888	85,368	マニュアル冊子 95,810 円 避難看板製作取り付け費 75,715 円 外４件（内訳明細書別紙参照）
	役務費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	その他	0	0	0	
	小計	144,000	228,888	85,368	
その他の経費	飲み物代	9,000	2,125	△　6,875	ペットボトルお茶代
	小計	9,000	2,125	△　6,875	
合計		153,000	231,013	78,493	

（注）交付金対象経費の支出には、領収書の写しを添付してください。

様式第８号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業報告書

事　業　名	箕蚊屋地区における「乳幼児の日常の危険と子育てを知る３回のセミナー」開催事業
事 業 目 的	乳幼児の日常で、住居内外に潜む危険と、乳幼児育ての医療面での課題、および、乳幼児育ての基本的思い方など、母や父など保護者として思い悩む基本的な事柄の解決のお手伝いを行うことにより、箕蚊屋地域や米子市の健全な子育て環境づくりを達成する一助となることを目的として企画実施した。
事業実施場所	米子市春日公民館
事業の対象者	・主体は、０歳児から就学前の保護者とその家族、及び、地域で子育て事業に参加している方や、保育園･幼稚園等の関係者と地域団体の役員とした。 ・各セミナー 親子２０組を含む５０名以内を予定する。（入場無料とした） ・実際は母子１０～２０組以内、子ども年齢の大きい保護者２０名、地域の乳幼児子育てに関心を持つ大人等１０名程度とした。 ・なお、乳幼児母子に対して、子どもの託児対応も行った。
事 業 概 要	事業概要 乳幼児の日常で、①住居内外に潜む危険と、②乳幼児育ての医療面での課題、③乳幼児育ての基本的思い方、など母や父など保護者として思い悩む基本的な事柄の解決のお手伝いを行うため、３項目の課題を３つのセミナーとして行なう。 第１回 セミナー　2 月 23 日（日）午前 10 時～11 時 30 分随時途中休憩 「乳幼児の日常の危険について」 場所：米子市春日公民館 内容：日常にひそむ子どもの危険について、年齢の段階による家庭内の危険、特に口にするものの危険、活動による危険について勉強します。また、赤ちゃん人形を使ったＡＥＤ講習も行います。 講師：鳥取県西部消防　米子消防署　救急救命担当官 第２回 セミナー　3 月 1 日（日）午前 10 時～11 時 30 分随時途中休憩 「子育て期に医療的立場で大切にしたいことについて」 場所：米子市春日公民館 内容：発達面で気になることがあるお子さんの発達支援など、医療的ケアが必要なお子さん、難病のお子さんの在宅診療を行う小児科医が、年齢の段階を踏まえた課題を具体例と考え方も含めて総合的にお話しいただきます。 講師：博愛こども発達・在宅支援クリニック 院長　玉崎 章子 先生 第３回 セミナー　3 月 29 日（日）午前 10 時～11 時 30 分随時途中休憩 「乳幼児期の子育ての心の持ち方について」 場所：米子市春日公民館 内容:乳幼児期の専門家による子育て期の保護者の心の持ちようや、失敗しがちな行動について、具体的なアドバイスをいただきます。 講師：鳥取県家庭教育アドバイザー　松本 寿栄子 氏 事業実施のスケジュール 11 月 23 日　青少年育成会の会長・副会長会で企画・決定 12 月 1 日　講師の選定、会場確保、日程決定 12 月 2 日～20 日　会場の確保と講師の確定と打合せ

公民館単位での周知活動についての対応打合せ

1月10日～15日　協力団体等の確認とチラシ掲載の承諾取り
米子市と各４地区民児協の協力確認と４地区主任児童委員の協力についての個別確認（８名）及び各地区民生児童言いに対する協力依頼（各地区会議等で各地区会長を通じて依頼）
チラシの発注と会場公民館との打合せ
（チラシ配布枚数の確定…巌地区1,300枚、県地区1,500枚、大高地区500枚、春日地区500枚、地区内保育園･幼稚園500枚、行政関係200枚、主任児童委員等の戸別配布分200枚、子育てサークル等100枚、その他200枚 計5,000枚）

1月20日～31日　チラシ5,000枚の配布会場の確保

2月10日～20日　３回の各講師との打合せ

2月23日　第１回セミナー「乳幼児の日常の危険について」実施
2月23日（日）午前10時～11時30分
参加人数 親子・夫婦参加4組 その他12人
計23人参加

＜第１回セミナーの様子＞

3月 1日　第２回セミナー
新型コロナウイルスによる学校休校実施やイベント自粛の要請もあり中止とした

3月29日　第３回セミナー
新型コロナウイルスによるイベント自粛の要請も継続のため中止とした

参加数
第１回のみ実施、計２３名の参加

告知方法
・箕蚊屋４地区（巌・春日・大高・県）地区公民館と地区民児協を中心に地区内での参加を呼びかけた。
・地域で各公民館と地区民児協に協力を依頼し、チラシに各公民館と米子市と各地

	域の民児協に協力を依頼、チラシに協力団体を明示した。 ・巌地区と県地区チラシ全戸配布、その他は各会議などを通じて周知を図ることとし、各地区自治連合会に対して「回覧」方式などにより世帯に周知を図った。（チラシ5,000枚作成配布） ・地区内の幼稚園･保育園で保護者に対してチラシの数回配布を依頼した。 ・地域での子育てサークルにチラシ配布を依頼した。 ・民生児童委員の地区内のネットワークで協力を依頼した。
事 業 効 果	一般的に、乳幼児の日常で、住居内外に潜む危険と、乳幼児育ての医療面での課題、および、乳幼児育ての基本的思い方など、母や父など保護者として思い悩む基本的な事柄の解決のお手伝いを行うことにより、箕蚊屋地域や米子市の健全な子育て環境づくりの一助となり、箕蚊屋地域が「住みやすい」「やさしい」場所となる第一歩となる。 また、このような子育てに密着するセミナーを身近な場所で毎年開催することにより、子育てしやすい地域の一助になることを期待する。
今後の取り組み 次年度以降、どのように継続して事業に取り組み、また、活動の成果をどのように住みよいまちづくりに生かしていくのか、具体的に記載してください。	・セミナー３回をワンセットとして、毎年巌を中心に継続して行なうとともに、箕蚊屋中学校区の各地区でも主体的に実施していけるよう、各公民館や地区社会福祉協議会、地域の青少年育成会、各地区民児協等に働きかけていく。 （各地区の運営組織は各地区の事情によりその仕組みを作っていくが、あくまでも地区ごとでやるのではなく、順番に年度やセミナーを各地区で開催し、各地区の負担を軽減していく。地区の運営組織は地区の主任児童委員や青少年育成会が主体となって実施していく。ただし、感覚として緩やかな集まりとして世話をしてもらう。 ・年間の実施時期は、年内に３回セミナー１セットを行うようにする。この場合４地区での開催の周知による集客を徹底する。 ・各地区の子育てサークルの運営に各地区の公民館地域がが協力し地区内での子育てサークルの認知度を高めていき、どこかの地区のどこかの団体が主体となって、地域の子育てサークル交流会的なイベント（箕蚊屋地区子育てサークル交流会）を行う。 ・次年度は巌地区で再度主体的に開催を計画していく。

（注）事業実績報告書は、米子市報、ホームページ等で公表することもあります。

様式第９号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業収支決算書

１　収入の部　（単位：円 ）

科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
市からの交付金	80,000	80,000	0	
自己資金	40,000	0	△40,000	
事業収入				
その他				
合計	120,000	80,000	△40,000	

２　支出の部　（単位：円 ）

	科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
交付金対象経費	報償費	30,000	5,000	△25,000	講師資料作成謝礼　１名分
	旅費				
	需用費	40,000	66,000	26,000	案内チラシ作成　5,000 枚
	役務費				
	委託料	45,000	9,000	△36,000	託児委託料　１回分
	使用料及び賃借料				
	その他	5,000	0	△5,000	
	小計	120,000	80,000	△40,000	
その他の経費					
	小計	0	0	0	
合計		120,000	80,000	△40,000	

（注）交付金対象経費の支出には、領収書の写しを添付してください。

様式第８号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業報告書

事　業　名	永江地区住民を対象としたカーシェアリング事業による外出支援事業
事業目的	永江地区の高齢者の世帯形態は、独居又は高齢夫婦世帯が多くを占め、自家用車を所有していない世帯も多く、日常の買い物・通院等の外出手段に不自由をきたし、生活の質的低下を余儀なくされている。 このような高齢者他に対し、地区住民がボランティアドライバーとして外出手段を提供することにより、高齢者等の生活の質的向上に資するとともに、高齢者同士並びに高齢者とドライバーとの交流を促進し、住民同士が支え合う地域づくりを推進する。
事業実施場所	米子市永江地区、並びに本会会員の外出先施設（米子市内、伯耆町、日吉津村）
事業の対象者	米子市永江地区住民　７２人（令和２年３月３１日現在の会員数）
事業概要	・本会加入会員募集 ・日本カーシェアリング協会から借り受けた軽自動車１台を使用したカーシェアリング事業による外出支援事業 事業概要　買い物支援、 医療機関への通院支援、 行政機関への手続き支援、 その他日常生活上の外出に係る支援 ・外出支援を通じた会員相互交流の促進 ・鳥取県生活協同組合との共催により、支え愛の店ながえを開催場所とした会員を含む地区住民の相互交流の促進を図るお茶会（永江さんち）の開催
事業効果	昨年８月「永江ささえ愛クラブ（仮称）設立準備会」の発足、同年１１月準備会の活動他を引継いだ「永江ささえ愛カーシェアクラブ」の設立以降、永江地区高齢者に対し買物・通院他の外出支援等を行ってきた結果、以下の事業効果が認められた。 ・会員である高齢者の日常生活の質的向上に資することとなった。 ・会員同士、並びに会員とボランティアドライバーとの交流が促進し、住民同士が支え合う地域づくりの推進となった。 ・ボランテイアドライバー間の交流並びにその拡大を図ることにより、地域づくりの人材育成になることとなった。 ・外出目的別利用者数（片道延人数）総数　４４５人 内訳　買物　１６７人、通院　２３１人、その他　４７人
今後の取り組み 次年度以降、どのように継続して事業に取り組み、また、活動の成果をどのように住みよいまちづくりに生かしていくのか、具体的に記載してください。	・現行の買物支援、通院支援、その他日常生活上の外出に係る支援・お茶会を継続するとともに、日帰り旅行支援・会員が個人で使用する機会等を検討し、可能なものから実施し、地区住民の外出要望に対応する。 ・外出支援を介して住民同士が支え合う地域づくりを推進する。 ・会員を含む地区住民の相互交流が促進され、より住みよいまちづくりに寄与することとなる「お茶会（永江さんち）」の開催を継続する ・ボランテイアドライバーの増加により、地域づくり人材の育成拡大に繋がることとなり、永江地区において人材の次世代継承に寄与する。

（注）事業実績報告書は、米子市報、ホームページ等で公表することもあります。

様式第９号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業収支決算書

「(仮称) 永江ささえ愛クラブ」設立準備会収支決算、永江ささえ愛カーシェアクラブ収支決算の合算

１　収入の部　　（単位：円 ）

科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
市からの交付金	８０，０００	６０，０００	△２０，０００	
自己資金	０	０		
事業収入	１９５，０００	２１０，７００	１５，７００	積立金　２１０，７００円
その他	０	６，９００	６，９００	寄付金　６，９００円
合計	２７５，０００	２７７，６００	２，６００	

２　支出の部　　（単位：円 ）

	科　目	予算額	決算額	増減	備考（積算内訳）
交付金対象経費	報償費	０	０	０	
	旅費	０	０	０	
	需用費	５５，０００	１６９，８８０	１１４，８８０	広報マグネット１０，５６０円、事務費３６，０４８円、スタッフベスト７９，２００円、ガソリン代他４４，０７２円
	役務費	０	２７，７２０	２７，７２０	自動車保険料１９，２４０円、登録料８，０５０円、郵便料４３０円
	委託料	０	０	０	
	使用料及び賃借料	２２０，０００	８０，０００	△１４０，０００	車両レンタル料５５，０００円、店使用料（駐車場他）２５，０００円
	その他	０	０	０	
	小計	２７５，０００	２７７，６００	２，６００	
その他の経費		０	０	０	
		０	０	０	
	小計	０	０	０	
合計		２７５，０００	２７７，６００	２，６００	

（注）交付金対象経費の支出には、領収書の写しを添付してください。

様式第８号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業報告書

事　業　名	地元に帰ろう「帰って来いよ！キャンペーン」
事業目的	このキャンペーンは、都会に進学した学生の３割しか地元に帰ってこない現状を踏まえ、若者たちに地元で暮らす魅力を発信し、将来この地を生活の場として選んでもらう事を目指しています。 ＜地元に暮らす人向けの情報発信＞ ◆　広報番組「帰っていいとも！」 ◆　地元の魅力「語り部」事業 ◆　県立ハローワーク応援事業 ◆　山陰アフタースクール事業 ＜都会に住んでいる人向けの情報発信＞ ◆　UIJ ターン応援事業 ◆　県内企業紹介書籍販売 ◆　ふるさと「仕送り便」事業 今回の補助事業では、キャンペーン全体に関わる広報資料作成及び効果測定、地元の魅力「語り部」事業について助成頂きました。
事業実施場所	鳥取県内及び島根県東部（大山中海圏域）
事業の対象者	地元に暮らす子ども、保護者、そして地域の人々
事業概要	◆　広報物の作成 ➢　帰って来いよ！キャンペーンポスター、チラシの作成 地元の魅力を伝える紙芝居の動画３本制作 ➢　月影を探して（https://www.youtube.com/watch?v=xn0rxA838gU） ➢　じぶんできめるみち（https://www.youtube.com/watch?v=a-tyie9qMpE） ➢　ポンポコポコリンだいぼうけん （https://www.youtube.com/watch?v=Ss49vxv9f4E） ◆　地元の魅力「語り部」事業 地元の魅力を伝える紙芝居をイベント会場で上演 ➢　令和元年５月５日　ホープタウンお仕事キッズにて お仕事体験イベント参加の子供たち、保護者の前で上演 ➢　令和元年７月 12 日　東みずほ幼稚園にて 園児(５歳児)５２名、保育士４名の前で上演 ➢　令和元年７月 31 日　米子をおもしろくしよう会にて 米子面白くしたい市民約 80 名の前で上演 ➢　令和元年 10 月 20 日　よどえ夢まつりにて上演 ➢　令和元年 10 月 29 日　Working Women の集い総会にて 山陰女性経営者の提言団体総会にて、島根県知事、安来市長他 大山中海圏域の経営者 90 名の前で上演 ➢　令和元年 11 月８日～12 月８日　日南町美術館にて 「帰って来いよ！キャンペーン」展示 ➢　令和元年 12 月 21 日　日野シンポジウムにて 会場内の鳥取県、島根県、広島県の高校生 30 名の前で上演

	◆　ふるさと「仕送り便事業」 県外に暮らす子どもたちへの仕送り(荷物を送る)に県内企業の情報等を一緒に梱包する取り組み。親の温もりと共に、直接子どもたちの目に届く形での情報発信。 ➢　社会実験期間　令和２年１月 10 日～3 月 9 日 ➢　受付窓口　まるごう東福原店
事　業　効　果	帰って来いよ！キャンペーンの事業を行政と協働で活動することを通じて、 地元の子供、学生、保護者、経営者や、県外に住む地元出身者(学生、社会人)等様々な方にアプローチすることが出来た。 事業効果として挙げられる項目は、米子市出身の関西在住現役大学生が地域活性化を目的にしたタピオカ専門店を期間限定でオープンした等、以下の通りです。 ✧　様々な立場の方が参画 ✓帰って来いよ！キャンペーン　松江市が後援 ✓都会地で暮らす地元出身者が参画 ✓現役大学生による地元活性化を目的としたタピオカ専門店開店 ✧　受賞歴 ✓日本海新聞ふるさと大賞 2019　地域貢献賞受賞 ✧　取材・掲載 ✓仕送り便事業の取り組み取材 新聞社３社：山陰中央新報、日本海新聞、読売新聞 テレビ局２社：山陰放送、中海テレビ放送 ✓帰って来いよ！キャンペーンの取組み取材 新聞社１社：日本経済新聞社 ✓広報よなご１月号にふるさと「仕送り便」事業掲載 ✧　効果測定 ✓帰って来いよ！キャンペーン Facebook 広告に対する反応 １回目　リーチ数　2,084、エンゲージメント　251 ２回目　リーチ数　2,595　エンゲージメント　291 ✓帰って来いよ！キャンペーン Facebook「いいね！」数 2019 年３月　370、　2020 年３月　531　　161 いいね！増 ✓効果測定アンケート 平成 30 年５月３日、平成 31 年３月 21 日に行った意識調査の定点観測 令和２年３月に実施 実施方法　①仕送り便梱包資料にアンケート用紙を封入 ②アンケートフォームを SNS で拡散
今後の取り組み 次年度以降、どのように継続して事業に取り組み、また、活動の成果をどのように住みよいまちづくりに生かしていくのか、具体的に記載してください。	引き続き、帰って来いよ！キャンペーン８つの事業を継続し、若者たちに地元で暮らす魅力を発信していきます。 今回の補助事業で制作した紙芝居動画を YouTube に投稿し、自宅にいながら「この地域の良さ・魅力」に触れることのできる場を提供します。 また、2017 年 4 月から継続的に開催している「帰って来いよ！キャンペーンコンソーシアム会議」内（メンバー：鳥取県、米子市、ふるさと鳥取県定住機構他）でこの地で暮らす誰もが、この地の魅力を語ることが出来るような仕組みを構築していきます。

（注）事業実績報告書は、米子市報、ホームページ等で公表することもあります。

様式第９号（第１２条関係）

まちづくり活動支援交付金事業収支決算書

１　収入の部　（単位：円 ）

科　目	予　算　額	決　算　額	増　減	備　考（積算内訳）
市からの交付金	300,000 円	300,000 円		
自　己　資　金	200,000 円	173,726 円	△26,274 円	
事　業　収　入				
そ　の　他				
合　計	500,000 円	473,726 円	△26,274 円	

２　支出の部　（単位：円 ）

	科　目	予　算　額	決　算　額	増　減	備　考（積算内訳）
交付金対象経費	報　償　費	70,000 円	35,000 円	△35,000 円	紙芝居師謝金 5,000 円 7 名分
	旅　費				
	需　用　費	150,000 円	151,980 円 (50,000 円) (11,130 円) (6,700 円) (5,150 円) (34,520 円) (5,380 円) (8,230 円) (13,090 円) (17,780 円)	1,980 円	ポスター・チラシデザイン 仕送り便のぼり 10 枚×1,113 円 仕送り便リーフレット 1,000 枚 仕送り便ポスターA3　300 枚 仕送り便ファイル 1,000 部 帰って来いよポスターA3　500 枚 帰って来いよポスターA2　500 枚 帰って来いよポスターA１　100 枚 帰って来いよチラシ A4　1,000 枚
	役　務　費				
	委　託　料	250,000 円	265,000 円 (100,000 円) (165,000 円)	15,000 円	アンケート調査 紙芝居動画制作
	使用料及び賃借料				
	そ　の　他	30,000 円	21,746 円 (3,376 円) (3,735 円) (10,000 円) (3,520 円) (1,115 円)	△8,254 円	仕送り便梱包資材 500 枚 仕送り便梱包資材 1,000 枚 Facebook 広告　2 回分 振込手数料 送料
	小　計	500,000 円	473,726 円	△26,274 円	

その他の経費					
	小　計				
合　　計		500,000 円	473,726 円	△26,274 円	

（注）交付金対象経費の支出には、領収書の写しを添付してください。